

もっと笑顔で、暮らせる明日へ。

aito

9

Sep 2020
No.306



立川支所管内 小林 義廣さん(73)



チャレンジ精神を忘れずに

近畿地方で制作されている竹細工を偶然見つけ、「自分もやってみよう！」と自己流でアレンジしながら制作しました。出来上がった作品は金婚式で妻に贈り、感謝の気持ちを形で伝えることができました。

「家族みんな同じ趣味を持つこと」をモットーに、家族と一緒にゴルフやスキーなどに挑戦しています。これからもチャレンジ精神を忘れず、家族や友人に楽しんでもらえるようなことを見つけて、日々の生活を充実させていきたいです。



いっぱい友達を作って大きくなってね！

藤島支所管内 板垣 龍牙さん(10)・彪牙さん(8)・絢音ちゃん(6)



小学校の授業で図工が得意な龍牙さんは、とてもしっかり者で弟妹の面倒見が良いお兄ちゃんです。

誰に対しても優しい彪牙さんは、苦手な野菜を少しずつ克服中で、現在はきゅうりとトマトが大好きになりました。

歌ったりお喋りすることが大好きな明るい性格の絢音ちゃんは、ひらがなが書けるように猛練習中です。



いろいろな物を作れる発明家になりたい！

人形遊びが好き！

家ではパズルやゲームをして遊んでいるよ！

3人で料理のお手伝いもするよ！

FAMILY FARM

新余目支所管内

太田 重義さん(66)
太田 重幸さん(35)

ファミリーファーム



地元での花き栽培に充実感

(重幸さん) 13年前、自身の結婚を機に専業農家として就農。現在は父の稻作を手伝いながら、ハウス7棟で花き「トルコキキョウ」「ストック」を栽培しています。花きの栽培は全面的に父から任されているため、収穫から出荷調整までの一連の作業を1人でこなしていけるよう、作業の効率化を日々模索しています。

農業は100%自己責任の職業ですが、手間をかけた分だけ見返りがある、とてもやりがいを感じる職業だと思っています。農業に従事し日が浅い私ですが、地元の同年代の農家と情報交換をしながら楽しく農業ができます。互いに切磋琢磨しながら、高品質な花きの栽培を目指していきます。

庄農生トライ

SHONOSETRY

農業のやりがいに惹かれ

食料生産科3年 五十嵐 純人さん 鶴岡市



私が所属する食料生産科では、稻作をはじめ、野菜や果樹などについて学んでいます。3年生になると「課題研究」という科目があり、私は「庄内魅」について取り組んでいます。その中で、山形大学と連携した庄内スマート・テロワールに参加し、魅の原材料である小麦の収穫作業の見学などをさせていただきました。

高校生活の3年間で農業について学び、農作物を育てる難しさはもちろんですが、農業のやりがいに強く惹かれるものがありました。将来は、JAに就職して地元の農業・農業者のために頑張りたいと考えています。残り少ない学校生活を大切にし、進路実現に向けて精一杯頑張ります！

協力先との取り組み

①足湯カフェ・チットモッシュ（あつみ温泉）
8月13日から8月末まで、店内の足湯をワイン足湯として活用。8月22日、23日には月山ワインの試飲・販売を兼ねたイベントを開催。

②湯野浜温泉

同温泉観光協会の協力で、8月17日から8月23日まで、温泉街にある足湯をワイン足湯として活用。加盟宿泊施設に対し9月末まで月山ワイン付きプランを実施するよう呼び掛け。市の「鶴岡泊まつて応援キャンペーン」宿泊客へ月山ワインの提供を検討。



③鶴岡シルク株

「侍絹（サムライシルク）」のワイン染め製品の商品開発として、マスクとスカーフを製作。JAは9月中旬に販売を行う予定で、通常の月山ワインとシルク染め商品のセット販売等も検討している他、頒布会の実施やふるさと納税返礼品としての活用を想定している。

④ショウナイホテル スイデンテラス

ヤマガタデザインリゾート株の協力で、9月1日から10月中旬頃まで、同ホテルにおいて月山ワイン風呂宿泊プランを提供。宿泊部屋のお風呂を赤ワイン風呂として楽しめる他、ワイン染めシルク又はスカーフのプレゼント、夕食時に月山ワイングラス1杯サービス、同市内でのブドウ狩り体験の特典付き。

～ワイン染めシルク製品のお求めについて～

上記でご紹介致しました「ワイン染めシルク」のマスクとスカーフの販売情報は、下記よりご確認下さい。

JAホームページ：<http://www.ja-shonai.or.jp> JAツイッター：@JAshonaitagawa

*販売開始後、在庫が無くなり次第終了となります。

この度は、各方面より月山ワイン復興へ応援の声を頂戴し、
支援の輪が広がっていることにつきまして、心より厚く御礼申し上げます。

J A庄内たがわ役職員一同



③鶴岡シルク株

「侍絹（サムライシルク）」のワイン染め製品の商品開発として、マスクとスカーフを製作。JAは9月中旬に販売を行う予定で、通常の月山ワインとシルク染め商品のセット販売等も検討している他、頒布会の実施やふるさと納税返礼品としての活用を想定している。

④ショウナイホテル スイデンテラス

ヤマガタデザインリゾート株の協力で、9月1日から10月中旬頃まで、同ホテルにおいて月山ワイン風呂宿泊プランを提供。宿泊部屋のお風呂を赤ワイン風呂として楽しめる他、ワイン染めシルク又はスカーフのプレゼント、夕食時に月山ワイングラス1杯サービス、同市内でのブドウ狩り体験の特典付き。

特集

月山ワイン復興プロジェクト

7月豪雨で各地に被害／復興へ各産業と連携

県内における7月下旬の記録的な豪雨により、JA管内では大豆や水稻、園芸品目の圃場約280haに被害が生じました。また、当JA施設では、朝日地域の月山ワイン山ぶどう研究所のワイン貯蔵庫が浸水被害を受け、2019年醸造のワイン約1万本が廃棄せざるを得ない状況となりました。

公務多忙の中、吉村美栄子県知事より被災地を視察頂き、「著しい被害を受けた月山ワインを飲用以外に活用できないか」というお話もあり、県及び鶴岡市と協議した結果、「月山ワイン復興プロジェクト」を立ち上げることとなりました。プロジェクトでは、温泉街での「ワイン足湯」としての活用や、ホテルでの「月山ワイン風呂宿泊プラン」の造成、「ワイン染めシルク」の商品化へ取り組むこととし、8月中旬より着々と進めしております。これらの取り組みには、JAが被災ワインを無償で提供するものであります。

今後も市と協力しながら、各産業と連携し、月山ワインを核とした地域経済の活性化を見据えた取り組みを行い、月山ワインのPRと消費拡大、観光誘客などを進めて参ります。

また、JAでは2020年産月山ワインの仕込み作業が始まっており、品質の高い、喜んで頂けるワインをまた皆様の元へお届けできるよう担当職員らが頑張っております。新酒ワインの時期まで、どうぞ楽しみにお待ちくださいませ。



吉村知事らが被災地を視察

8月3日には、吉村美栄子県知事や高橋淳県議らが、庄内町千本杉や鶴岡市櫻の大蔵農地、月山ワイン山ぶどう研究所の貯蔵庫の被害状況を視察され、同行の担当職員より説明をさせて頂きました。

7月28日昼過ぎに、沢の水が土砂とともにワイン貯蔵庫に流れ込み、施設の半分ほどの範囲が浸水。出荷前のワインが泥水に浸かったため、後日、職員による廃棄作業が行われました。



ブドウ／最優秀賞に佐久間豊雄さん(櫛引)

ぶどう部会は8月11日、産直んめ農マルシェでブドウ「デラウェア」の品評会を開き、8点出品の中から佐久間豊雄さん(櫛引)が最優秀賞に選ばれた。12日には産直店で受賞ブドウを特価で販売し、庄内産の品質の高さをPRした。県庄内総合支庁農業技術普及課や鶴岡市などの関係者が審査員を務め、県青果物等標準出荷規格に基づき、粒揃いや着色具合、糖度などの9項目を審査。「7月の長雨により実割れが一部の園地で見受けられているが、房姿も大きく同規格の18度以上の糖度を確保しており、高品質に仕上がっている」と講評された。収穫されたブドウは地元や関東市場へ出荷された。



温室メロン／出荷規格を確認し意識高める

温室メロン部会は8月6日、三川町で目ぞろえ会を開いた。参加した部会員約20人は、メロンのサンプルを用いて等級条件や基準糖度などを確認した。園芸特産指導員はネット密度が均一で基準糖度は14度以上であることや、収穫は果肉温度が上がらない朝の時間帯を行い、涼所で調整することなどを説明した。7月の降雨による日照量不足で、糖度について懸念されていたが、適切なハウス内の温度管理や水分調整などにより全体的に基準糖度を確保しており、果形・大きさ共に良好となっている。28日には鶴岡市で品評会を開き、太田重義さん(庄内町)のメロン品種「ヴェルダ」が最優秀賞に輝いた。



長ネギ／出荷量130t目標に高品質栽培へ意欲

長ねぎ部会は8月7日、三川町で夏ネギの目ぞろえ会を開いた。部会員約30人が参加し、高品質出荷に向けた出荷規格や集荷体制などを入念に確認した。JAは出荷時の留意点として、鮮度維持の為に取り置きは行わず、根を切る際は基盤を切り落とさないよう注意する他、箱内での品質をそろえて選別を徹底することを示した。また、安定収量の確保に向け、圃場の排水対策を徹底し、予防除害を行うよう呼び掛けた。今年産は、7月の長雨で日照量不足による生育遅延が見受けられたが、高品質な仕上がり。年間出荷量130tを目標に主に関東市場へ出荷し、夏ネギ出荷は9月下旬まで続く。



人参／生育順調、高品質出荷に期待

人参部会は8月27日、羽黒地域でニンジンの圃場4カ所を巡回した。同行したJAの園芸特産指導員と品質や生育状況などを確認し、順調に着色や果実肥大が進んでいると総括した。今年産は7月の長雨による湿害が懸念されたが、8月上旬以降の好天との確な肥培管理により、メインのA品Lサイズを例年通り出荷できると見込んでいる。部会では、収穫が9月中旬から始められる予想しており、今後の予防除害の徹底が品質向上の決め手となるとしている。JAは主な取引先である生活クラブ生協への出荷は例年並みの50tを予定。収穫の最盛期は10月中旬頃、出荷は11月中旬頃まで続く。



地域とJAを結ぶネットワーク 各地の話題を追って

JA NEWS

掲載記事の詳細はホーム
ページに掲載しております



園芸品目の新規作付け拡大を呼び掛け

JAは8月17日～21日、組合員の所得増大と生産拡大に向け、園芸作物の新規作付けを促す研修会を管内で開いた。関心を持つ組合員に圃場を視察してもらい、作型の特徴や収益性などを学んでもらった。対象作物は、アスパラガス、軟白ネギ、サトイモ、ストック、トルコギキョウ、スプレイ菊、醸造用ブドウ、庄内柿の8品目とし、集まった約40人の組合員へJA担当者が品目の特性や圃場管理、栽培方法、販売の利点などを説明した。参加した組合員は、担当者に複合経営などについて質問していた。今後、JAは新規作付けを希望する組合員向けに栽培面積や栽培品種などの営農相談にも応じていく。



生産現場の声を国政へ

JAグループ山形は8月17日、山形市のJA研修所を主会場に「食料・農業・地域政策確立を図る県要請集会」を開き、庄内会場に当JA役職員らが出席した。県選出国會議員に新型コロナウイルス禍に伴い、食料安全保障の強化や災害等に強い農業づくりを推進するよう政府へ働きかけることを要請した。JA山形中央会の長澤豊会長は「国民生活に不可欠な食糧の安定供給の使命を担う生産現場の声を政府に届けてほしい」と呼び掛けた。要請は①新型コロナウイルス対策の継続・強化②食料安全保障の強化③農村の総合的振興対策④災害・感染症等に強い農業づくり⑤米の需給・価格の安定など品目対策⑥国際交渉・規制改革対策とし、頑張ろう三唱で実現への決意を強めた。



水稻の作柄「やや良」を見込む(8月15日現在)



8月28日、農林水産省から今年産米の作柄概況(8月15日現在)が発表され、山形県全体と庄内地域の作柄はともに「やや良」の見込みであるとされました。穗数は、田植期以降おむね天候に恵まれ、初期生育が良好だったため平年に比べ「多い」と見込まれ、1穗当たりの米粒数は穗数が多いとの見込みから平年に比べ「やや少ない」と見込まれております。

JAでは、今年産米の作付予約を約8000haとしており、「土づくりと初期生育の確保」をテーマに掲げ取り組んでいます。JA米穀担当者によると、管内の出穂は、田植期以降に好天が続いたため平年より早い予想でしたが、7月の日照不足で平年より1日遅れて推移しました。出穂後に高温で経過したため順調に登熟が進み、刈り取りは9月10日頃からスタートし、10月中旬まで続く予定となります。



園芸TACや園芸特産指導員が生産拡大・収量確保に向け全力でサポートしていきますので、ご興味のある方は、営農販売部 園芸特産課までご相談ください。
TEL : 0235-64-5831
Email : entoku@ja-shonai.or.jp

共済Q&A



Q 大雨などの水害、自然災害に対する車の保障はありますか？

A 自動車共済では、車両保障を契約いただければ保障できます。

車両保障（担保）は、大きく分けて2種類あります。

○ さまざまなリスクに幅広く保障する『全損害担保』（おすすめ！）

○ 自損事故や当て逃げなど一部保障を除く『限定損害担保』

自然災害の保障（地震や噴火またはこれらによる津波を除く）はどちらの担保を選択いただいたても保障になります。

尚、詳しい内容については、温海支所 0235-43-3411 藤島支所 0235-64-5838 柳引支所 0235-57-2994
最寄りの各支所共済課まで 新余目支所 0234-43-4426 三川支所 0235-66-2797 鮎日支所 0235-53-2512
お問い合わせ下さい。 立川支所 0234-56-2155 羽黒支所 0235-62-2140

園特 特集

里芋栽培で所得向上を目指しませんか？

「早掘り栽培」で高収入を実現

全国有数の里芋消費地である山形県。芋煮会や盆彼岸など様々な場面で消費されています。里芋の栽培は、大幅な省力化が見込め、稲作との複合経営にも適しています。

JAでは、「早掘り栽培技術」が確立されており、JAでもおすすめの栽培方法です。4月下旬に定植、9月の収穫となることから、9月上旬の芋煮シーズンや秋彼岸など、需要期を狙った出荷が可能になります。早掘りが可能になります。早掘りが高収入へ繋がるポイントです！

JAでは、園芸販売高40億円に向けた重点品目として、里芋の規模拡大・新規作付け誘導に取り組んでいます。

JAでは、作付面積5ha以上の新規取組者を対象に、種苗費の半分を助成する種苗助成や1ha以上の栽培への機械導入助成も行っております（条件あり）。さらに、収穫後の調整作業をJAに委託するお助けコースなどを利用できます。

補助事業も充実！
生産者に合った栽培を

所得目安 ※想定規模1ha（掘り取り機械化）
粗収入⇒10,000kg×単価280円（昨年度平均単価）
=2,800,000円
⇒所得率39.9%（減価償却なし）
=所得：約1,100,000円
※お助けコース利用の場合はお助け利用数量に伴い、所得率が変動します。

和梨／今年も食味と外観に自信

生育状況を確認する為、柳引支所なし部会は8月20日、柳引地域の園地6か所を巡回した。品種「幸水」の着果数や大きさ、糖度を調査した結果、全体的に平年並みの仕上がりで病害虫被害も少なく、高品質出荷が期待されている。23日には目ぞろえ会を開き、出荷規格の

糖度12度以上を目標に、収穫・出荷することや等階級などを詳しく確認した。今年産は地元市場や直販へ55tを出荷する予定。



さくらんぼ／来年産へ向け栽培管理を再確認

さくらんぼ部会は8月28日、柳引地域でサクランボの夏季管理講習会を開いた。参加した部員約30人は、天候不順による低温が影響した今年産の結実不良の対策と共に、来年の高品質生産に向けた栽培管理方法を学んだ。講師を務めた県庄内総合支所農業技術普及課の指導員は、①樹の骨格枝数を適正本数にする②品種ごとに受粉樹確保③適宜施肥④着果を促す土作り一などの重要性を呼び掛けた。



んめ農マルシェ／2周年祭に人・人・人！

鶴岡市にある産直んめ農マルシェが8月8日～16日、2周年祭を開いた。日替わりで販売イベントを実施し、初日は開店前から店外まで並ぶほどの行列ができ、大勢の来店者で賑わいを見せていた。デラウェア限定200パックとメロン限定100玉の特売企画では、即時完売するほどの盛況ぶりだった他、地元産のイチゴとメロンをふんだんに使ったオリジナルパフェも大人気で、続々と注文を受けていた。



焼畑あつみかぶ／伝統「焼畑農法」の火入れ

温海地域で8月20日から、焼畑あつみかぶの最初の栽培行程となる火入れ作業が行われた。焼畑は、斜面となる圃場の草木を火で焼くことで、灰が肥料となり病害虫駆除にもなる。安全安心な品質を重んじた栽培方法で、同地域では400年以上続いている。生産者で構成する焼畑あつみかぶブランド力向上対策協議会の会員90人が12haで作付けを予定しており、100tの収穫量を見込んでいる。



あいとスクール／ホットヨガでリラックス

J Aは8月21日、女性大学「あいとスクール」を開き、受講生約10人が鶴岡市のヨガスタジオでホットヨガを体験した。インストラクターの指導のもと、体の筋肉をほぐし、汗を流しながら日々の疲れを癒した。室温39℃前後、湿度60%前後に保たれた暖かい室内で、体を

大の字にして力を抜くポーズ、背中の筋肉を反らすポーズなどで体を温め、受講生らはリラックスした表情を浮かべていた。



女性部／フラワーアレンジメント講習会

女性部新余目支部は8月11日、新余目支所でお盆をテーマにしたフラワーアレンジメント講習会を開き、スプレー菊やトルコギキョウ、リンドウなどを使い、アレンジメントを楽しんだ。同支部の鈴木節子さんが講師を務め、花の大きさや高さ、色合いのバランスを見ながら、

お盆にぴったりなオリジナルの作品に仕上げていた。参加した部員は「イメージ通りの作品ができた」と笑顔で話してくれた。



「心の声」

夏の終わりを感じるときは?

見上げた空が澄み渡り、うろこ雲(いわし雲)が魚の大群のように浮かんでいたら…「ああもう秋だなあ~」と季節の移り変わりを感じます。

E・Hさん【新余目】

毎年飼育している「鈴虫」が鳴き始めると夏の終わりと、秋の到来を感じます。今年は大量に孵化しましたよ。

K・Sさん【羽黒】

毎日のようにどっさり収穫できていたキュウリの蔓が黄色くなってきた時、それから、「あ、日が短くなったのね」と感じる孟蘭盆の頃。I・Kさん【柳引】

私が夏の終わりを感じる時は、「こおろぎ」や「スズ虫」が鳴き始めた時です。夜風にあたって散歩しているときに虫の音を聞くと夏が終わるなと思います。K・Yさん【朝日】

夏の野菜が産直やスーパーから少なくなったとき。K・Hさん【新庄市】

夏休みの宿題を終わらせていた8月末になると、あの焦燥感と情けなさと共に夏の終わりを感じています。大人になった今でも変わりません。

R・Yさん【福岡県】

10月号投稿のテーマ
「祖父母との思い出は?」

9月21日は
敬老の日

【応募方法】下記の①～③を郵便はがき・Eメールにご記入の上ご投稿ください。

①テーマの答え(掲載致します)②住所・氏名・年齢・電話番号③広報誌の感想・JAへの意見・要望など

【あて先】JA庄内たがわ広報情報係

〒999-7611

鶴岡市上藤島字備中下3-1

E-mail kouhou@ja-shonai.or.jp

【しめきり】令和2年9月30日水 当日消印有効
※投稿頂いた方の個人情報は、目的以外には使用いたしません。

月山ワイン山ぶどう酒2名様



今月のプレゼント



aito

Sep 2020
No.306

発行／庄内たがわ農業協同組合 〒999-7611

山形県鶴岡市上藤島字備中下3-1 TEL.0235-64-3000

電子メール tagawa@ja-shonai.or.jp

印刷／庄内農村工業農業協同組合連合会



ホームページ

Twitter

Instagram



さとう みか
佐藤 美佳さん(23)

温海支所管内

海が広がる大好きな地元に就職し、休日は鶴岡市内でフラダンスの練習をしています。お祭りやショッピングモールで披露したこともあります。良い姿勢や健康を維持できているのはフラダンスのおかげです。海が好きなので、サーフィンにも挑戦したいです。

撮影場所—グランド エル・サン (鶴岡市)